

## 極めて高い稼働率の2台の Trimble S シリーズ!

栄土地測量設計株式会社様は、60年以上にわたり、愛知県豊橋市で、土地・建物の調査測量から、登記、許認可申請まで一括対応「ワンストップサービス」を提供してきた老舗の合同事務所様です。2000年初頭よりモータドライブ型のトータルステーションを導入し、省力化と効率化を実現。現在では一般的になっている『サーボトータルステーション』が広く普及する以前より、その効率化をご存じであると言えます。代表の青山様は、『一番高くつくのは人件費です。つまり人が動く事が一番コストが掛かるので、サーボトータルステーションを積極的に導入しています。人が行っていたことを機械に任せる事で効率化でき、コストを確実に下げることが出来るのです』と仰っています。

現在、Trimble S シリーズは2台(Trimble S5/Trimble S7)所有されていますが、極めて稼働率が高いと言えます。基準点測量、現況測量、測設、横断測量など、幅広い測量業務にて Trimble のサーボトータルステーションを活用されています。



### 青山様/尾崎様:

『Trimble S シリーズを初めて見た時、固定ネジは無いし、手で回転させた感触もかなり柔らかかったので、本当は精度に不安があったんです。しかしながら私が入社してからは、現場作業がある日には、Trimble S シリーズを使っていない日は、無かったと思います。やはり現場作業は早いですし、もちろん不安に思っていた精度も一切問題ありませんでした』



今は、2台の Trimble S シリーズの他に、数台のマニュアルトータルステーションを所有しておりますが、山間部の測量以外の現場では、ほぼ Trimble S シリーズが優先して使われているとのこと。稼働率が高いのには理由があります。

### 尾崎様:

『測設作業が正確で、やはり早いと思います。測設作業スピードは通常のマニュアルトータルステーションに比べて、倍とは言いませんが省力化は得られています。特に確認のための角度振り(旋回)は早くてラクです』

清水様:『現場には2人以上で行くので、ロボティックは殆ど使っていない』とのこと。『それでも現況測量においては、一日400点~500点ほどは観測可能で、現場作業は確実に早いです』

現況測量であれば Trimble S シリーズを使うそうです。

### 尾崎様:

『Trimble のオートロック機能は視準が早いので便利です。当然、基準点や境界点など大事な際には、望遠鏡を覗くようにしてはいますが、視準モードはほぼオートロックを使用しています』

これからの課題は持っている2台の Trimble S シリーズをもっと使いこなし、作業の省力化・効率化を図り良い成果をお客様に提供していきたいとの事でした。



インタビューにご協力頂いた、青山様(代表取締役社長)/尾崎様/清水様(左より)